闘病日記～２００６夏～

２００６年7月８日（土曜日）
今日僕はまた精神病院に入院する事になった。それもそう決まってしまったのは皮肉なコトに７月７日の七夕の夜の事だった。
もう精神病院への入院はかれこれ６～７回目の事だ。それも今回はその中でも二度目（ちょっとだけの閉鎖を抜かすと）となる閉鎖病棟へ入院だ。僕の初めての入院も病院は違うが閉鎖病棟だった・・・。
それから何度も入院はしたが全ては開放病棟であり閉鎖はホント最初と今回とで二回目だった。

一番初めの入院（閉鎖）の時に僕には物凄いトラウマが出来てしまって、だから正直閉鎖病棟に入院してしまった今は不安しか僕の中には無い。何ひとつ僕を安心させてくれるモノや安心出来るモノは無い。
唯一安心出来るモノは、好きな女の子から貰ったクマのマスコット（ポピー）だけだ。

そんな不安だらけの中で僕は最低でも数日はこの閉鎖病棟で過ごさなければならない。急に出た今回の入院の話。だから担当医すら今はまだ決まっては居ない。
でももしもこの選択肢が正しく無かったとしたのなら僕は最悪の結果（死）命日は、皮肉にも７月７日の満点に散りばめられた星々からなる天の川が広がる七夕の日の夜になっていた可能性は限りなくあった。

７月７日の夜
年に一度の彦星と織姫が天の川を越えて会える日・・・。

僕はそんな日に君との永遠のさよならをしてしまって居たのかも知れない。正直今の僕には何も分からない。
けれどこれだけは今言えるコト。
僕は君が好き。そして夕べの七夕の夜に君との初めてのテレビ電話で君と会えた。
７月７日の七夕の夜に・・・。
だけどその理由には余りにも悲し過ぎる程の現実があった。

僕はまた初めっからのやり直しだけど、でも僕はまたここから歩き始めてみようと思う。
君と手を取り歩いて行けるその日まで・・・。

そして来年も再来年も七夕の夜に天の川を超えて君と何度もこの僕は再会し続けて行きたいんだよ。

ずっと一緒に愛しの君と居られたら、きっと僕は幸せさ。

２００６年7月９日（日曜日）
今日で入院生活二日目だ。正直この病院の閉鎖病棟には閉鎖的空間は余り無い。昔味わった閉鎖病棟と比べれば雲泥の差だ。けれどそれは空間的なモノで、時間や心は確実に拘束されている。正直言ってそれは僕を苦しめるモノでしかない。
慣れ？
こんな状況に慣れて良いのか？　そもそも僕の性格がそんなモノに慣れるコトなんて出来るのか？　今の僕には到底出来ないコトだ。基本的に夜２１時から朝６時までタバコは吸えない。勿論他の事だって出来ない。前までの入院ならＭＤウォークマンを聞いていたり、パソコンを使っていたり、手書きで文章書いていたり、そしてタバコを吸ったりして眠れるまでや、中途早朝覚醒で夜中に目覚めてしまっても何とかなった。けれど閉鎖ではそれが一切出来ない。預けているモノ（殆どのモノを預けなければならない）の貸し出しだって限られた時間の時以外の時間では貸し出させてもらえない。例え実際それが使用出来る時間帯だとしても・・・。
だけどこの生活に慣れていない僕にはその辺の事がイマイチまだよく把握していない。とにかくハッキリしている事は、どれだけ空間が開放的だったとしても、結局は自由度の殆ど許されない閉鎖病棟だと言う事。

～何もかもを許された僕じゃ無いから、だから僕はまるで捨てられた子猫みたいだよ。ミャー、ミャー、ミャー～

だから例えどれだけの開放感的な空間があっても、いつでもこの僕の心は不自由と言う名の閉ざされた牢獄に縛られ閉じ込められている。

僕はあの子に会いたい。あの子を好きなこの気持ち。僕は絶対に誰にも負けたくない！！

だけど今はちょっぴり疲れてしまっている。ちょっぴりだけ疲れちゃったんだ。
だから今は眠れないけど、少し眠りたい。ほんの少しだけで良いから眠らせて欲しい。
今はほんの少し・・・。

今はこの病棟のコト（人）は、僕は誰も知らない。そして誰も僕を知らない。けれど誰にも知られたくないし、誰も知りたくはない。
僕は無色で透明な人間（存在）で構わない。

この場所では誰にも気付かれたくない。
こんな所で、こんな僕を・・・。

２００６年7月１０日（月曜日）
不自由な生活。今日で僕の閉鎖病棟での生活が三日目になる。
ちなみに未だ担当医すら決まっていない。入院時言われたのは月曜（今日）か明日には主治医が決まり、そして本格的な治療計画が決められるらしい。そして正確な病棟（(治療目的に合った病棟）閉鎖か開放か）も決まる。勿論僕は開放を望んでいる。不自由な生活の中では得るモノは今の僕には殆ど無い。死か生（入院）かの選択の中で僕は死ではなく、生（入院）を選んだ（決めた)。だから今の僕は死なんて考えていない。だって最悪の状態（死）を回避する為にリスクのある入院を選んだのだから。
だけど入院で先に繋がるモノを得られなきゃ退院しても最悪の死しか待っていない。その為にはこの入院生活の中で色々な事を整理し準備し、そして退院しなければならない。その為にはこの不自由な（何も出来ない、させてもらえない）状態じゃ何も意味が無い。
一体いつになれば主治医が決まり会えるだろうか？
出来る事なら早い方が良い。だから今日会いたいけれど、病院と言う所は僕の気持ちや都合なんて考えてはくれない。そんなモノさ。精神病院なんて・・・。
夕べは寝れずに夜中の零時と二時十五分と五時に目が覚めてしまった。その度に追加の眠剤等を処方してもらい、何とか朝を迎えた。夜の２１時から朝の６時（正確な起床時間７時）までは全く自由は無い。タバコすら吸えない。だからその時間帯に目覚めてしまうのは苦しみや辛さでしかない。

今の僕の願い。
それは今のこの閉鎖病棟から出て開放病棟に行き、そして多少の自由を手にすること。だってそれが出来ないのなら、僕のこの入院自体無意味なモノになる。だから先は無いけど、きっと僕は自ら退院するだろう。だってどれだけ長く入院しても退院後の準備が出来ないのなら、入院前と何も変わらない同じ事に過ぎないのだから、今の僕に必要な事はあくせくと忙し過ぎた現実で出来なかったコト。
それはまずは静養。そして整理とこれからの準備。その３つだ。それが可能になるにはまずは自由の利く開放病棟へ移転。
主治医にこの僕の願い（入院治療目的）は理解してもらえるのかな？　何はともあれ今はただ不安なだけです。

結局今日も主治医も正式な治療方針も病棟も何ひとつ決まるコトは無かった。

不自由な世界から見える屋上のフェンス・・・。きっとそのフェンスの向こうに僕の求める世界はあるんだろうな・・・。あの無機質なフェンスの向こうに広がる真っ青な青空に、きっと僕の求める世界が・・・。

・・・早く君に会いたいです・・・

２００６年7月１１日（火曜日）
今朝昔Ｄ病棟でお世話になった看護婦長さんの好意でタバコが一本ずつしか受け取れなかったのが、一箱持たせてもらえるようになった。ちなみに主治医は決まって無いが、昨日閉鎖病（３北）医が仮面談した際、せめて所持のタバコだけでも今の一本制を一箱制に変えて欲しいと願ったが、今はまだ無理と、まるで初めから決められていた台詞かのように無表情で一言で言われてしまった。だからこれは医師の許可（判断）ではなく、あくまでも看護婦長さんの独自の判断での好意である。それも昔のＤ病棟での僕の性格（人間性）を知っての上でのありがたい信頼関係で成り立った好意である。だから僕はそのコトでの問題を絶対に起こしてはせっかくの好意の裏切りになり、だから僕はそのコトでの問題は絶対に起こさないと心に誓った。でも本当にこれは先の見えない不安な僕にとって、とてもうれしい好意だった。

話は変わるけど食事の時に胃が痛い。食事が辛い・・・。けれど閉鎖では食事くらいしか一日の中でのやるコト（楽しみ？）が無い。だから仕方なく食事を決められた時間に済ます。でも本当は自分のペースでさせて欲しいと言うのが本音かな？　けれど何はともあれ閉鎖病棟じゃ仕方無いコト。早く主治医に会って正式な病棟を決めて欲しいです。

・・

今さっき担当医が決まったが、俺の気持ちなんてまるっきり無視で、そんな治療方針は出来ないと一言言い切られて、売り言葉に買い言葉じゃないけど、「だったら入院なんかしてたって俺には何の意味もねぇ！！」って言って自主退院を勝手に決めてしまいました･･･。もう正直親にも医者にも理解されず見捨てられた気分（と言うか本当に見捨てられてしまったのかも・・・）なので今日、今（夕方の４時頃なんですが）イキナリ急遽の退院です。

もう完全に見捨てられちまった・・。

だから現実世界に帰る場所は僕には無く・・・。

これから先、ただ不安だけです・・・。

今は何を言ってもきっと我が侭だとか、自分勝手としか捉われないので、今は何も言う気は無いです。本当の理解なんて僕は一生されるコトなんて無いような気がしました・・・。けれど僕以外の心の病を抱えている方々への周りの理解がされるコトを僕は心から願って祈っています。

きっと大丈夫！　きっと僕なら大丈夫！！　きっと僕なら・・・。

作者
斉藤和彦